

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
b.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
対象行動	研究開発・実証
概要	当社はグリーンイノベーション基金事業で以下のケミカルリサイクルに関する技術開発を進めています。 ①廃プラスチックの直接分解によるオレフィン製造 ②廃プラスチック由来合成ガスを用いたエタノール製造 ③CO2からの高効率アルコール類製造 ④アルコール類からのオレフィン製造

b.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	<京葉コンビナート内事業所における社用車へのEV導入> ・京葉コンビナートに位置する千葉事業所における、構内移動用社用車にEV導入 姉ヶ崎・袖ヶ浦工場、研究所、関係会社を有する（従業員数 約1200人） ・CO2排出削減とともに、社員のカーボンニュートラル意識向上が初期の目的 ・今後、敷地内で発電する再生可能エネルギーを使用予定 ・またEVを移動手段としてだけでなく、災害発生時の非常用電源等多様な用途で活用していく計画

3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
削減対象	Scope 3
目標年度	2030年度
基準年度	2020年度
目標削減率	14%
削減目標における選択対象の位置づけ	ケミカルリサイクルの実現により、原材料の調達から製造や使用、廃棄に至るまでの製品ライフサイクル全体での排出量削減に寄与します。

b.	電気自動車等
削減対象	Scope 1+2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	50%
削減目標における選択対象の位置づけ	ガソリン車からEVへの切り替えによるScope1の排出量削減に加え、社員の意識変革を通じて省エネ等の波及効果を見込む。

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

b.	電気自動車等
目標年度	2030年度
定量的目標	社用車の1割EV化

選択対象に関する定量的目標の概要	千葉事業所の社用車について、1割EV化を目指す。 ただし、事業環境次第では、導入計画を変更する可能性あり。
------------------	--

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

(日付) 2025年1月30日

住友化学株式会社
(執行役員) 辻 純平